

リニア関連事業への思いと市議会の対応 ～ 飯田市議会リニア推進特別委員長にきく～

飯田市議会は、改選後2年を経過するところで常任委員会・特別委員会構成が変わり、リニア推進特別委員会（委員長：井坪 隆 市議会議員）も新委員会メンバーに引継ぐ。井坪委員長がこの間の委員会活動などを振り返る。



井坪 隆 飯田市議会リニア推進特別委員長

ー リニア推進特別委員会の委員会活動振り返りの内容は。

市議会では委員会の切り替え時に、委員会活動の総括と次期委員会への申し送り事項をまとめることになっており、リニア推進特別委員会としてのまとめを行った。

まず取り上げたのは特別委員会としてのあり方について。リニア推進特別委員会は、飯田市の行うリニア駅周辺整備を主な対象としていること、また議案の審議を行う機能がないことから、市執行部からの報告を受けるだけということにならないように、と委員の思いがある。

当特別委員会としては、「市民の声が活きる議会」、市民との意見交換を通じリニアに対する考え方をまとめることとしてきた。上郷北条地区リニア対策委員会に出向き懇談会を開催した。平成30年6月には飯田市リニア推進部に対しリニア推進特別委員会として「事業の対象となる住民への丁寧な対応について」などを内容とする要望書を提出した。住民の立場に立って市へ声を届けるということで、議会の役割として適切な対応ができたのではと感じている。

市民との意見交換では、まちづくりに取り組む各団体、南信州アルプスフォーラムやNPOいいだ応援ネットワークとの意見交換会を行った。当特別委員会としてもまちづくりの視点、つまりリニア駅整備は、いわゆる駅周辺だけでなく、リニア駅は起点であって中心市街地や飯伊地域、上伊那地域とどう結びつけるかを考えることが必要、との共通の認識を持つに至っている。

議会主催によりリニア駅周辺整備検討会議の座長を務められる小澤一郎氏の講演会を開催したことで、自動運転を中心とする「新しいモビリティ」という考え方を一気に広めることができたと考えている。

ー 昨年の12月議会での委員会視察報告で、高岡市の新幹線新駅整備を巡る財政問題には興味を引かれました。

その後高岡市から財務資料を取り寄せたとのことですが。

高岡市の資料によると、新高岡駅周辺整備の事業費は約100億円。財源内訳は50億円が国・県の補助金、45億円が起債、残り5億円が一般財源であった。現在、飯田市ではリニア駅周辺整備にあたり、基本設計、実施設計へと作業が進められているが、議会としても高岡市の例を参考にしながら、飯田市の財政出動を注視していきたい。



北陸新幹線 新高岡駅（リニア対策課撮影）

高岡市が財政難に陥っているとの報道があったが、単に新幹線駅整備によって引き起こされたというものではないことである。高岡市は新幹線駅周辺整備に約100億円かけるとともに北陸本線（現あいの風とやま鉄道）高岡駅周辺整備に約150億円かけている。また市立文化会館があるのに県立文化会館を誘致するなどが積み上がった結果であり、これに対する議会のチェックが十分でなかったという反省があることを、飯田市議会として「他山の石とする」ことが必要と考える。

飯田市でも、リニア駅周辺整備事業費が、基本設計の検討で出てきたデザインなどで膨らむのではと憶測されているが、どれ位になるのか。また、乗換新駅は請願駅として進められ、ひと口に5億円かかると言われているが、新たに駅を設置するとなれば関係自治体での負担をどうするかという問題が出てくる。

また、「アリーナ機能を中心とした複合施設」についても近いうちに方向が出されるが、これも市として対応が迫られることになる。文化会館の建て替えは、3月議会の中でリニア開業時まで優先的に整備すべき事業を整理し目途がついた後に見通しを立てる、との表明があったが、実施となれば他市の例から数十億円といった金額も取り沙汰される事業となる。

これらが出て来たとき、市議会としてどう判断していくか、議会が本領を發揮すべきときが来ると考えている。

ー 今後、リニア関連事業費が組上に載ったとき、リニア推進特別委員会がどう対応するか。

それが、特別委員会としての難しいところである。最初に述べたが、特別委員会はある期間の中で特定事項についての調査・研究を行うもので、議案・予算審議は馴染まないとされており、リニア関連事業予算は関連するそれぞれの常任委員会、例えば産業建設委員会など、で審議されることになる。かつて市議会では、天龍川治水対策の予算審議を特別委員会で行った例があるが、これは治水対策特別会計で行われた事業。リニア関連事業は常任委員会を跨ぐ内容があり、当特別委員会での審議という訳にはいかない。

ただ、こうした「議会運営上の問題」と言っても市民の皆さまにとっては判り難いことであり、リニア関連予算審議の上で透明性が担保されることが肝要である。そして、リニア推進特別委員会としては、これまで視察や研修を行い検討を重ねて知見・知識の蓄積を進めてきており、当然これらを基にリニア関連予算審議に携わるべきとの考えがある。そのことも特別委員会まとめの中に意見として入れてある。いずれにせよリニア事業に関係する市民の皆さまや広く市民から声をお聞きする機会を設け、リニア関連事業が、当地域の振興と暮らし豊かな地域づくりにつながるよう、適切に判断してまいりたい。

委員会メンバーが替わっても、当特別委員会が変わらずに機能して欲しいというのがリニア推進特別委員会まとめに込めた思いである。

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平）



高岡駅（あいの風とやま鉄道＝旧北陸本線）再開発
（リニア対策課撮影）